

心

の

翼



令和6年度に向けて

松浜病院 病院長 小 熊 隆 夫

この度の震災で被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。元日を襲った今回の地震には多くの方が驚かれたことと思います。様々な技術の発達が著しい昨今ですが、自然がもたらす災害に我々がいかに無力かをあらためて思い知らされました。被災地のいち早い復興を祈るばかりです。

さて、昨年来毎日聞かない日が無いくらいよく聞く言葉として「AI（人工知能）」があげられます。こちらの技術も驚くほどのスピードで進歩しています。もともとAIはITの発展とともに進化してきましたが、一昨年に関与されたChatGPTの登場で一気に身近なものになったような気がします。仕事で作成する資料から大学のレポートや夏休みの宿題の感想文など、私たちが苦労してやった記憶のあるものがいとも簡単にできてしまう世の中になったのです。この原稿もお任せしようなどと考えたのですが、どうにも使い方がよくわからずあきらめました。

今やあらゆる場面で使われるようになったAIですが、一方で我々人間は今後何を仕事として生活していくのだろうかという漠然とした不安を感じます。AIの普及で多くの職が必要なくなると予想されているからです。今後医療の中でも積極的に使われるようになると思いますが、実際に生身の人に対して行う処置や介助など、まだまだ人でなくてはでき

ないことも多いと思います。AIや技術の進歩と人が共存できるような未来になることを切に願うばかりです。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが昨年の5月から5類となり、ここ何年か制約の多かった日常生活や経済活動が漸く以前の状態に戻りつつあります。一方でコロナ禍で盛んに行われたWeb会議やリモートワークは今でも普通に利用されるようになりました。また、買い物の支払は多くのお店でキャッシュレスとなりました。感染拡大が無ければこれほどの変化はなかったと思うのですが、改めて人間のしたたかさを感じた次第です。

世間で言われていたコロナ禍は終わりましたが、感染の不安が無くなったわけではありません。当院でもクラスターの発生がありましたし、職員が感染するケースも続いております。感染対策上院内でのマスク着用や面会の制限などは継続しておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今後も社会や医療の動向を注視し、患者さまに寄り添い必要な医療とは何かを常に意識しながら、当院に関係する全ての皆様の人権を尊重しつつ質の高い医療サービスを提供して、より一層信頼される病院を目指します。なにとぞよろしくご願ひ申し上げます。

